

| | | | | | |
|------|-----------------------------|----------------|-----------------|-----|---------------|
| 政策の柱 | I 市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために | 政策名 (基本施策名) | 4 愛情豊かに子どもたちを育む | 施策名 | ① 児童健全育成環境の充実 |
|------|-----------------------------|----------------|-----------------|-----|---------------|

1 施策の取組状況

| 主要な取組内容 | 施策指標の実績とH24末の見通し | 指標の達成率 | 施策指標等 (最上段が、総合計画に基づく指標) | 単位 | 指標の数値(上段:目標値, 下段:実績値) | | | | | | 達成率 |
|---|--|--------|----------------------------|----|-----------------------|-----|------|------|------|------|--------|
| | | | | | H19 | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | H23 |
| | | | | | 基準年 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 見込み | H24見通し |
| ◆地域における子育て支援の充実や児童の放課後の居場所づくり、体験活動の充実を図るため、放課後子ども教室と子どもの家を一体的に実施する宮っ子ステーション事業を推進している。 ◆子どもが自主的に活動できる環境づくりを推進するため、青少年の居場所づくり事業などの健全育成事業に取り組んでいる。 | ◆宮っ子ステーション事業の実施箇所数については、地域で子どもを育む環境づくりの必要性を訴え、事業の立ち上げ支援に取り組んできたことにより、目標値には達していないものの実施箇所数は着実に増えている。 ⇒平成24年度末の見通しとしては、引き続ききめ細かな事業の立ち上げ支援に取り組んでいくことで、目標の達成が見込まれる。 ◆青少年の居場所設置箇所数について、平成20年度以降横ばいであり、平成23年度の達成率は59.0%となっている。 ⇒今後、地域団体などと連携しながら設置促進を図っていくが、目標設置数の達成は難しい状況である。 | 56.9% | 宮っ子ステーション事業の実施箇所数 | 箇所 | / | 6 | 16 | 26 | 36 | 51 | 56.9% |
| | | | 地域における青少年の居場所設置箇所数 | 箇所 | 2 | 3 | 9 | 17 | 29 | 51 | 100.0% |
| 課題 ◆宮っ子ステーション事業の推進にあたっては、事業全体のあり方の見直しや、放課後子ども教室の開設日数の拡大など事業内容の充実が課題となっている。 ◆地域の中で、青少年が異世代交流などを通して、人間性や社会性を養うことができるよう、居場所を設置促進していくためには、新規開設者や見守り役となる人材の発掘が課題である。 | | | | | / | | | | | | |
| | | | | | / | | | | | | |
| | | | 市民意識調査(重要度・満足度) | | | | | | | | |
| | | | | | | H20 | H21 | H22 | H23 | | |
| | | | | | | 重要度 | 63.3 | 64.0 | 58.9 | 70.7 | % |
| | | | | | | 満足度 | 18.0 | 19.0 | 18.1 | 28.2 | % |

2 重点事業の進捗状況

| 事業名 | スケジュール | | 事業の進捗状況とH24末の見通し | 課題 |
|------------------------------------|--------|---|--|--|
| | 前期 | 後期 | | |
| 〔地域における子育て支援の充実〕 宮っ子ステーション事業の推進 | |  | ◆すべての児童の放課後の健やかな育成を図るため、「放課後子ども教室」と「子どもの家」事業を一体的に実施し、地域、学校などと連携して放課後における児童の安全安心な居場所を設けるとともに、勉強やスポーツ、文化活動、交流活動などの様々な活動を通して地域ぐるみの子育てを行っている。子どもたちが地域社会の中で心豊かに育まれる環境づくりを推進するため、全小学校区での放課後子ども教室の実施に向けて、各地域において順次開設を行った。 ⇒宮っ子ステーションがほぼすべての小学校区で実施され、放課後児童の健全育成がより一層図られる見通し。 ◆子どもを取り巻く社会環境の変化から、放課後における子どもの居場所と体験・交流・学習の機会がますます重要になってきていることや、子どもの家事業の開設時間の延長や対象学年の拡大など、運営内容に課題が生じてきているため、将来の事業のあり方の見直しを行った。 ⇒緊急性や国の動向、将来の放課後対策のあり方を見据えた見直しにより、より効果的に事業が推進される見通し。 | ◆放課後子ども教室の開設日数の拡大や事業内容の充実が求められている。 ◆今後の社会状況の変化を踏まえながら、放課後対策の更なる充実を図るため、事業のあり方の見直しが引き続き必要となっている。 |

3 施策を構成する事務事業の活動指標

| No. | 事業名 | 対象者 | 開始年度 | 活動指標等 | 単位 | 指標の数値（上段：目標値，下段：実績値） | | | | | 重点度 (A~C) ※施策目標に対する寄与度 | 事業の 方向性 | 施策目標を達成するための取組方針 |
|-----|-----------------|------------------|------|---------------------|----|----------------------|-----|-------|-------|-------|------------------------------|------------|--|
| | | | | | | H20 | H21 | H22 | H23 | H24 | | | |
| | | | | | | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | | | |
| 1 | 青少年の居場所づくり事業 | 小学生・中学生・高校生 | H15 | 地域における青少年の居場所の実施箇所数 | | 25 | 35 | 39 | 39 | 39 | A | 継続 | 地域における青少年の居場所は、異世代交流などを通して人間性や社会性を養う上で有効であることから、地域団体などとの連携を図りながら設置促進を図る。また、中高生の利用促進を図るため、見守り役やサポートなど役割を与えるなど、中高生が参加しやすい仕組みを検討する。 |
| | | | | | | 25 | 24 | 23 | 23 | | | | |
| 2 | チビッコ広場整備事業費（単独） | 自治会等 | S49 | チビッコ広場箇所数 | | 80 | 80 | 80 | 50 | 45 | B | 継続 | 地域の実情に応じてチビッコ広場を運営していけるよう自治会に対し、補助制度の活用による自主的かつ円滑な運営を促していく。 |
| | | | | | | 77 | 76 | 71 | 54 | | | | |
| 3 | 児童遊園事業費 | 児童（小学生以下） | S55 | あそぼの家事業開催数 | 回 | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 | B | 継続 | 児童遊園は、遊びを通して児童の健康増進と情操を豊かにするには重要であることから、指定管理者による安定的かつ効率的・効果的な運営が図られるよう、適切な助言等を行う。また、利用者のニーズ把握に努めるとともに、ニーズに応じたあそぼの家事業の実施に努める。 |
| | | | | | | 46 | 43 | 49 | 40 | | | | |
| 再掲 | 社会体験学習推進事業 | 宇都宮市立中学校2年生の生徒全員 | H14 | 充実した体験をした生徒の割合 | % | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | - | 継続 | キャリア教育において、中学校での重要な体験活動である。勤労観を高めていくために、今後とも推進していく必要がある。 |
| | | | | | | 91 | 91 | 93 | 93 | | | | |
| 再掲 | 放課後子ども教室推進事業 | 児童及び地域住民 | H19 | 宮っ子ステーション実施校区数 | 箇所 | 6 | 16 | 26 | 36 | 51 | - | 拡大 | 体験活動や異年齢交流は子どもの健全育成に重要であり、また、事業を地域住民が運営することで、地域の教育力の向上が図れるため、施策目標への貢献度は高い。今後とも子どもの家等との一体的な実施を目指しながら、宮っ子ステーション事業として更に事業を推進していく。 |
| | | | | | | 3 | 9 | 17 | 29 | | | | |
| | | | | 宮っ子ステーション実施日数 | 日 | 162 | 574 | 900 | 1,430 | 2,320 | | | |
| | | | | | | 346 | 589 | 1,210 | 2,064 | | | | |